

4 月定例教育委員会会議録【概要版】

開催年月日	令和5年4月26日（水）	場 所	市役所本庁 災害対策本部室
開催時間	14時30分 から 15時15分まで		
出席者	教育長	澤野 幸司	
	教育委員	宮田 靖、久世由美子、高橋勝栄、甲斐千尋	
	参 与	丸山真二、竹光俊司、瀬之口博行、早瀬誠一郎、山田 聡、工藤靖治、山本栄作、太田康晶、岡田健一、下野隆平、古川久師	

◎ 議 事

◆議案第1号 「令和5年度 延岡市青少年指導員の表彰」について（社会教育課）

- 社会教育課長補佐より、青少年指導員として8年以上活動し、その功績が特に優良である者として選考された被表彰候補者について説明があり、異議なく承認された。

◆議案第2号 延岡市青少年育成センター運営協議会委員の委嘱について

（社会教育課）

- 社会教育課長補佐より、令和5年5月31日までの任期となっている延岡市青少年育成センター運営協議会委員の新たな委嘱について説明があり、下記の質疑の後、異議なく承認された

◎) 昨年度までの運営協議会で議論された事項について伺いたい。

⇒) 警察署や裁判所の方々から貴重な意見が聞ける大変貴重な機会であり、特に県北県南というレベルで考えると、県北は少し刑法事案が多いということを伺っている。近年の傾向としては、やはりSNSやインターネット関係の事案が増えているとのことであった。新型コロナウイルス感染症の関係で、目立った刑法犯自体は、全国的にも県内的にも減少傾向ではあると伺っている。

◎) こういう専門機関だとか、犯罪の抑止などの議論がここでなされている。学校関係の方々もいるし、保護者の代表もいるということで、今回新任の方もいるが、そういった議論を継続して行ってもらえるということになるかと思う。この間、延岡警察署長と話をする機会があったが、やはり警察としても、SNS上で犯罪に巻き込まれてしまう

というところあたりが非常に心配だという話があったので、ぜひこの運営協議会の中ではそういう情報を共有してもらいながら、子供たちがそういう犯罪に巻き込まれないよう、またその当事者にならないようにするにはどうするかという議論をまた進めてもらえればと思う。

◎ 協議事項について

◆「令和5年度の協議事項」について（総務課）

- 総務課長より、令和5年度の定例会における協議事項について、これまで通りの実施方法に加え、年間を通して協議するテーマをあらかじめ2つ（①小中学校における不登校対策について②今後の延岡市の教育について）設けることについて説明があったのち、協議を行った。

◎) この協議というのは、毎回この定例教育委員会の中で、議案の審議が終わった後に行っており、我々としては、当局から出された資料を基に延岡の教育を深く理解をしたりとか、または課題を見つけていったりとかということのためにこの協議を行っているというふうに私は理解している。今のような提案で、基本的にはこれまで通り教育委員からの申し出と、事務局からの協議して欲しい内容と、その両方を摺り合わせながら進めていくということによろしいか（委員了承）。また事務局から教育委員の意見について依頼があると思うのでよろしくお願いしたい。総務課長からあったように、今年やはり大きなものとして、新規事業の中でも説明したとおり、「小中学校における不登校対策」、これは先ほど学校教育課長からも、去年に比べると不登校が増えている、小学校も中学校も増えているという話があった。また、昨年度熊本のフレンドリーオンラインという仕組みについて、私たち自身もその取り組みを知ったところだが、これを事業化している。これをどうしていくか、どんな中身にしていくか、どういうふうに稼働させていくか、こういったものについては1回の協議だけではなかなか議論が終わらないだろうと思うので、少し重点として2回ぐらい議論をしたいと思っている。もう一つの「今後の延岡市の教育について」というのは、先ほどの社会教育委員の提言とも関係するが、これまでの学校にお任せというようなところから、みんなで協働してやっていきましょうという文脈だとか、学校の中でもそういった不登校が増えていること、校舎の老朽化が進んでいること、また、新しいツール、子供たちが1人1台のタブレットを持って学ぶという環境が整ってきている。こういった中で、限られた予算の中で、この延岡の教育をど

う進めていくかという、非常に大きくて漠としているが、こういったことについても、総務課に企画調整担当副主幹がいるのはそういったことを進めるために、事務局に企画調整という新しい担当を作ったので、副主幹にいろいろな情報を整理してもらいながら、その情報をもとに、議論したい。今年中にまとめるとかそういうことではないが、私たち自身もいろんなデータをもとに延岡の現状を理解して、じゃあどうあるべきかといったところを、先ほど言ったように、もう6年後には、子供が500人しか入学してこないという状況が来る中で、もうその時になってどうするかでは遅いので、少し早めに議論したいということで、この2つの柱をどうかと思い、事務局に話をしたところである。まず、重点項目を設けることについて何か意見があればお願いしたい。

◎) 小中学校における不登校対策について、対策を考えていくためには、まず原因を知ること、また、どこの中学校、小学校が多いのか、この辺りの現状を事前に教えて欲しい。

⇒) まず不登校について、毎年実施されている文部科学省の調査では、平成30年度は、小学校においては不登校が18人であった。これが令和3年度は44人になっており、26人増加している。続いて中学校における平成30年度の不登校生は83人であった。これが令和3年度は130人、47人の増加となっている。5年間でかなりの数が増えているという状況である。不登校、不登校傾向等の原因についても調査項目があり、延岡市で一番多い不登校の原因は「無気力、不安」というものが121人いた。続いて多い理由が「生活の乱れ」、遊びとか非行とか、そういうものに特化をしてしまって、生活が乱れて不登校傾向にある生徒が13人。次に「友人関係」が10人。「親子の関わり方」が7人。「学校の先生、教職員との関係」で不登校になったという子供が3人。「学業不振」が2人。「その他」が18人。不登校傾向等にある児童生徒についての指導は、本人はもとより、学校においては保護者とも十分面談等を実施し、不登校の要因・背景を把握するとともに、意向も考慮しつつ、不登校の現状に応じた支援及び指導を行っているが、結果的には毎年増えているという状況である。

◎) この不登校対策には大きく2つあるのかなと思っている。1つは、不登校にしないための取組みはどうあるべきかということが1つ。もう1つは、すでに学校になかなか適応できずに、なかなかオアシス教室、いわゆる適応指導教室にも来ていない、そういった子供たちをどういうふうに、何とかその学びにいきなっていくかという、

この2つの大きな柱があると思うが、前回委員の皆さんに行ってもらった熊本は後者の方、どうやって子供たちを引き出していかっていったところで、私たちも大きな事業を組んでいるので、このところが中心になっていくのではないかなと思う。そういった中で、先ほども委員も言われた学校になかなか適応しない、オアシス教室とかそういったところにも行けない子供たちが、何故行けないのかという原因を突き止められないことには、その子達を無理矢理その場所に連れてくることはできないので、両方が関連するような議論は同時に行っていくのかなと思っている。

- ⇒) オアシス教室の利用状況についてであるが、平成30年度は17人が利用している。そのうち3人が学校に復帰している。平成30年度は17人の利用であったが、令和3年度は35人となっており、9人が学校に復帰している。令和4年度の3月1日時点では46人がオアシス教室を利用している。昨年度はサテライト教室を設置したが、46人のうちサテライト教室は8人が利用している。オアシス教室の利用状況も毎年増加している状況である。
- ◎) オアシス教室については、南部だけではなく、今年から北部の東海中学校区にも1箇所サテライト教室を開設して、できるだけ通学の距離を短くするという取り組みをまた進めるということなので、そういうことも重ね合わせて議論をしていきたいと思っているが、この2回ほど不登校対策について協議するということについてはよろしいか（委員了承）。これで進めていくということで、学校教育課が進めていくいろんな事業の進捗に従って、時期的なことについてはまた相談させていただこうと思う。2つ目の「今後の延岡市の教育について」、非常に大きな話題になるがいかがか。
- ◎) 教育方針というのは、文部科学省の指導があって具体的なものが決まるのか。文科省の方針、具体的に柱があって、それに枝葉をつけて地方はやるのか。教育方針があって、延岡市はそれにプラスアルファでこうしますということなのか。
- ◎) どちらかというと、国は国で、学校教育のあり方というのは、振興計画で方針を示すが、それこそ非常に大きな話なので、どこの自治体でも当てはまるような内容。もうちょっと、本市の実態をとらまえた、もう少しピンポイントでの議論になってくるかなと思う。
- ◎) わかあゆ教育プランがあるが、結局それに反映させていくというような考え方に近いということか。
- ◎) わかあゆ教育プランは、どちらかというと教育の内容とか方法に言及しているので、もうちょっと学校の施設だとか、または地域と

の関係だとか、もうちょっと幅広い議論になってくるかなと思う。

- ◎) 先ほど社会教育委員の話聞いたが、ああいうものも入ってくるということか。そういう感じで、みんなの意見を聞くということか。
- ◎) 部活動などに関しても、地域移行という分野、いわゆる学校と地域との間で、今まで学校だけでやってきたところから地域にという、今回コミスクもそうだと思うが、そういうことも含めて、じゃあどうやっていくかっていう。わかあゆ教育プランでは、学校ではこんなことをしますということを示しているが、そのところを少し幅広く、延岡市の学校教育ではなくて、教育についてという、生涯学習なんかもにらみながらという議論になっていくのかなと思う。今、何を議論するのかははっきりしない中、なかなか意見も出しにくいと思うので、1回目やってみて、やはり継続が必要だという時に2回目をやっていくという感じで進めていきたいと思うがよろしいか（委員了承）。

◎ その他

◆新型コロナウイルス感染症対策について（教育部長）

- 5月8日以降の本市の新型コロナ対応の方針について説明があった。

◆5月定例会教育委員会の日程について（総務課）

- 5月定例会教育委員会については、5月24日（水）の13時30分から、災害対策本部室で開催する。

◎ 閉会

澤野教育長が閉会を宣し、終了した。（15：15）